神楽名 **押方神楽**

伝承地 **押方地区**
高千穂町大字押方

指定等 **国指定重要無形民俗文化財**

伝承団体 **押方神楽保存会**
代表　押方 功一

柴引き

❖ 神楽の概要・由来・その他

押方神楽は、高千穂町三田井中心街から「国見ケ丘」へ通じる県道２０３号土生高千穂線の登口に鎮座する嶽宮神社の氏子集落にて奉納される。嶽宮神社は昌泰３年（９００）に伊邪那岐・伊邪那美神を祭祀する二上神社の外宮として建立されたと伝えられ、天文１８年（１５４９）に再建されている。鎮座地の周辺には、戦国時代末期に京都伏見より勧請された高千穂稲荷大神社や、永禄６年（１５６３）建立の地福寺地蔵堂がある。地福寺地蔵堂は押方氏の菩提寺で永禄１０年（１５６７）作銘の貴重な鰐口も現存している。

氏子は上押方公民館区５５世帯、下押方公民館区１２０世帯、片内公民館区１７世帯の１９２世帯で、夜神楽は氏子総代を中心に１５名の小集落組合長が神楽役として年次廻し当番で行われ、神楽宿は上押方・下押方両公民館が隔年廻しで使われる。押方神楽は三田井系統であるが特殊な足運びがあり、他の地区の神楽と一緒に舞う事は出来ない。

❖ 芸能の機会・場所

- 秋の大祭（１２月１０日に近い土、日曜日　上押方または下押方公民館にて）
- 大晦日・年始め（式三番＋１、２番）
- 太鼓の口開け（１月１４日に近い第２土曜日）
- 旧暦の初午（稲荷大神社にて式三番＋沖逢、住吉）
- 春の例祭（５月　御神幸、神おろし、開きおもて）
- 彼岸の中日（稲荷大神社にて式三番＋沖逢、住吉）

❖ 演目一覧

神迎え・宮神楽	御神幸・道神楽	神楽宿神事	御神屋始め	彦舞	太殿
神おろし	鎮守	杉登	地固	幣神添	山森
武智	弓正護	岩潜り	御神体	沖逢	五穀
八鉢	住吉	七貴神	大神	太刀神添	本花
地割	袖花	柴引き	伊勢神楽	手力男	鈿女
戸取り	舞開き	日の前	御柴	注連口	繰下ろし
雲下ろし	神送り				

※平成２８年１２月に奉納された演目に基づく

❖ 演目の特徴

押方神楽は、浅ケ部神楽をはじめとする旧高千穂村の三田井系神楽で、祭場の設えや舞はほぼ類似しているが、「手力男」で、岩屋戸に擦り足で静かに近づく探りの手など、押方神楽独特の所作舞がある。「地固」は水徳剣としての太刀の呪力により耕地を護る、国土安泰祈願の神楽で、襷に女性の帯を使用し子孫繁栄を願う。舞の最後に村の護符、神物として刀に象徴される水徳を授ける儀式「宝渡し」がある。

夜が明けると岩戸開きの神話にちなんだ「岩戸五番」が奉納される。三十三番のフィナーレ「雲下ろし」まで終わると、片付けの前に天照皇大神筥宮を上輿に移し、弓・太刀の正護・猿田彦・氏神・上輿・宮司の順で隊列を作り、楽を奏しながら嶽宮神社に「神送り」を行う。

❖ その他の特徴

- 面...猿田彦、御神体、八鉢、七貴神、地割荒神、柴引、手力男、鈿女 等
- 楽...太鼓、笛、ガタ
- 装束...白衣、素襖、千早、白袴、裁着袴、烏帽子、毛笠、どっさり 等
- 採り物...鈴、扇、御幣、刀、面棒、襷、弓矢、榊枝、木桶、竹ざる、藁苞 等

❖ 伝承の現状・課題

神楽の舞手である祝子者は、１０代から３０代の若手後継者と５０代の舞手を主力とした１９名で構成されている。三十三番を省略せずに全て舞っている。急な代役にも対応出来る様、５年毎に舞手を代え、十八番を作らない様にしている。三十三番を舞え、指導力のある後継者を養成したい。先代から引き継いだものを、そのまま残したいと考えている。

杉登り

弓正護

山森

宮崎県教育委員会　文化財課　平成３０年（２０１８）３月　発行